一年有半　全

B 10
101

B10/101

中江篤介著

一年有半

東京博文館藏版

B 23475

世界との交際

超然の怪物彈冠して笑ふ

此三新聞に由りて余の世界との交際を繼續する事也、此間伊藤內閣倒れて、桂內閣之れに紹て興れり、極て微弱なる立憲內閣、否立憲內閣の幻影消散して、超然內閣勃興せり、桂內閣なる者は其成立したる丈けにて世の立憲政治家に向ふての、宣戰布告と謂ふ可し、

○星亨、健在なりや、犬養毅、健在なりや、民間政治家一たび利を目的とし、權勢を目的とし、成効を目的とせし以來は彼れ超然の怪物相共に、冠を彈して笑ふて曰く、民間黨畏るゝに足らず、

○伊藤大隈のリヴァリテーの時代は去りて、伊藤

Colbert, Jean Bapt. (1619–1683)

Manchesterpartei, Laisser faire, contra Staatssocialismus

コルベールの時代

マンチェスター派の賜

山縣のリヴァリテー時代と成れり、民間意氣の銷沈實に是に至る、而して其原因は財無きに苦むに在り、余故に曰く、今の日本はコルベールの時代也、

○余是迄新聞に雜誌に時々曰へり、「マンチェスター派經濟論は我日本官民上下を毒せしと久し、即ち自由放任の經濟主義明治政府と共に發展して其力を逞しくし、今や經濟界の附屬品たる交通運輸の機關は日々に具備して、而して此等機關を利用す可き主要品たる產物は、三十餘年以來幾何の增殖を見ず、車輛有りて積貨無し是れ我邦今日の經濟界也、是れマンチェスター派經濟論の賜也

Jeremy Bentham (1748-1832)

事して此に居る者、皆洒然無害の長者なるをや

〇政友會、星死して落寞の感を免れず、然れとも政友會重なる部分を爲せる自由黨は、歴史古く地盤固く、且つ彼輩深くベンタム的利己學の實驗に得る所有りて、唯た利祿是れ圖りて、復た人間羞恥の事有るを知らず、故に今後とても決して分裂等の憂有る可らず、小波瀾は或は有る可し、小内訌は或は有る可し、各派の競爭は或は有る可し、然とも政友會の力は正に其大政黨たる所の處に存して、分裂すれば雙方共に損有りて益無きが故に、所謂内訌もキワドき所に至れば自然に已みて、相共に利を圖り害

を避くるとを是れ務めて、他念無かる可し、而して世の利益一方に志すの徒は、漸次に之に赴く可く、此處兎に角遽に衰滅に歸するには至らざる可し、但其内容を爲す所の人物は、大勳位を首とし他總務連中に至る迄、無氣力、無志概の人々なるを以て、唯た蠢々然相蕩撼し、瞢々然歳月を空過して、既に國に益無く、亦大に已れに利するに至らずして、久しきを經て雲散霧消す可し、吁是れ政友會の運命也、夫れ或は周に繼く者百世と雖も知る可き也、孔夫子我を欺かず

〇大勳位は誠に翩々たる好才子也、其漢學は惡詩

Robert Peel (1788–1850)

大政事家は誰ぞ

織田信長、明智光秀の屬、動もすれば此術を用ゐたり、是れ固より憎厭す可し、權略事に施すが如きは、多々益々善し、事を成す正に此に在り、是れ殆と方法順序と曰はんが如き者

○佛のリセリユー、コルベール、チエール、英のピツト、ロバートピール、グラツドストン、獨のビスマーク、意のカヴール、支那の諸葛亮、曾國藩、我邦の德川家康、大久保利通、是等を大政事家と謂ふ、今の五等爵位の輩、此れ特に大陽の前の爝火のみ

大政事家の爲す所

○大政事家の爲す所は、一定の方向有り、動す可らざる順序有り、光明俊偉の觀有り、其言ふ所は即ち其行ふ所にして、今や彼已氏が徒らに准備多く觸込み多くして、幽靈の足の如く輙ち消滅し去るが如くならず、而して聞く、彼已氏は則ち竊にビスマークを氣取りカヴールを氣取れりと、他日此二人に地下に逢はゞ、夫れ何の顏か之れに對せん、呵々

大政事家は眞面目也

○大政事家は皆恐懼惕若の狀有り、小心愼密の態有り、其衷情眞面目なるが故也、彼已氏が公々然姫姜に戲れ醇酒に酗し、浮薄なる幕賓を集めて大言壯語し、而して僅に一二歎抗する者あるに遇へば、意氣輙ち沮喪して、唯た逃るゝことの早からざるを恐

燒て粉にして吹散らせ

又パイプを持す、書院付き茶席付きの家屋の一隅カーフェル付きの洋室を設く、其他斯くの如き類枚擧に遑あらず、此事小なるに似て實は然らず、一國の經濟に關する極めて大なるもの有り、五等爵位の大經世家、其れ何ぞ此に慮及せざるや、

○墓地日に月に益々廣がりて、宅地耕地總て生產地を侵すこと極て大なり、東京谷中青山に觀て見る可し、其間歲月の久しき、舊を毀ち新に代へ、相ひ償ふことを得べしと雖も、抑も大勢に於ては增す有りて減する無し、余は法案を設けて一切火葬と爲し、各人携へて去りたる餘は骨と灰とを一所に堆積し、每月日を定めて之を海中に投棄せしめんと欲す、其各人祭祀の如きは遺骨を家に置き、且つ寫眞畵若くは油繪等を展べ、之れに對して焄蒿悽愴の誠を致せば、以て孝子貞女の情を竭すに於て餘有るに非ずや、何ぞ必ず墓域を以てせん、若し夫れ國家に大功勞有りたる人物の如きは、別に碑を建てゝ之を表奬する可なり、斗筲の人にして一々碑に銘するが如きは笑ふ可きの甚き也

焄許云切、蒿呼高切、焄氣蒸出貌、蒿以上出也、祭義焄蒿悽愴、

卜筮、觀相、風角、巫祝

○卜筮、觀相、風角、巫祝及び諸種佛神護符の類、其人事に害し並に人の神智を傷むること極て大なり、此等徐に法を設け、多少の猶豫期を與へて之を禁絕

輩の到底夢想し得る所に非ず

官吏の安心

○其官吏に在ても亦然り、課長と成れば輙ち自ら安んず、局長と成れば輙ち安んず、國務大臣と爲るに及では其自ら安んずる更に大にして、即ち其勢位に據り事を行ひ、以て君恩に報じ民意に副ふて盛名を成すヿを思はず、唯其地位を喪はざらんことを是れ務めて、故らに無爲を事とし、以て破綻を致さざるヿを求む、我二十三年以後の內閣即ち是れのみ

學士博士に好著なし

○其學校の諸生に在ても亦然り、學士號を授かれば即ち自ら安んず、博士號を授れは即ち自ら安んず、此學位に讎ふ所以の實力を有すると否とは、曾て自

ら省せず、況んや此れより更に益々學に勤めて、以て事功を擧げ、若しは好著述を出して世に益することを求むるが如きは、絕て以て念と爲さず、故に今の學士博士家にして好著有る者、蓋し之れ有らん、吾未だ之を見ず、

是れ亡國の基

○夫れ國人各階級、各職業、皆小成に安んし易くして、而して大に改むるヿ無きときは、其國家に在りて實に寒心す可し、歐米諸國の斯の如く盛大なる者、他無し其民皆孜々として其事に勤め、死に之くまで他靡きに由らずんばあらず、緬甸、土耳其、埃及、朝鮮等の萎靡振はざる今日の如くなる所以の者、

其民小成に安じて肯て勤めざるが故也

○大國民と小國民との別は、疆土の大小に因るに非ず、其氣質胸宇の大小に是れ因る、今や英國本土は斯くの如く其れ狹小なり、而して五洲到る處英領無きは莫し、而して凡そ其作爲する所、皆洋々大國の風を呈露せざる莫き者は、其胸宇の大なるに起因せずんばあらず、倚與盛なりと謂ふ可し

（七月十八日堺市に於て此稿を草る）

第三

○近日學士輩往々言ふ、獨逸學術極て盛を致し、其工商業に當用せらるゝこと益々切實にして、其製造する所精巧にして價廉なり、英國の販路皆拆けて獨逸の領分に歸す、蓋し英國は衰運已に兆せり云々、然ども看よ、英が南亞に事有ること既に久しく、其兵を用ゆる三十許萬、其財を糜する十餘億、其間又北清の事有り、然り而して未だ曾て金融逼迫を告くる有らず、息錢常に百分の三四に往來して、其以上に騰らず、其富資の固き眞に人をして驚嘆せしむる

国家は兎も角も大物也

の如きは、斯くの如き智者の啗食に供して、果して幾何年所を延るを得可き乎、

○然と雖も、國家は兎も角も大物也、斯くの如き智者のみの窟宅には非ずして、亦余の所謂否な彼れ智者の所謂妄想家も其間に生存せり、是に於て乎、正義、公平、慈仁、愛國心、歔欷心の各種の妄念も亦相當の代表者を映出し來らずんば有らず、我日本帝國の如きも、彼れ啖人鬼に啖ひ盡されざる前、此等妄想家の來り溷するありて、社會は漸々眞面目に成り了はるも未だ知る可らず、今日早已に之れが象徵を示せり

眹直忍切、徵萌兆也、

改革の兆朕既に發せり

○彼三四倶樂部中、帝國黨中、貴族院中、未だ社會の表面に現出せざる無名氏輩中、衷心より眞に政友會の智者一輩の所爲を憎疾して、夫の正義、公道、自由、平等、愛國等、都て言語として極めて陳腐なる事實として極めて新奇なる意象を發揮する少數者を現出せんとするを見る、夫れ兆朕既に發せり、事實の之れに從ふと蓋し甚だ遠からざる可し、世の眞面目なる人物よ、左迄に悲哀せず少しく自ら寛ふせよ、皇天后土必ず我日本國を棄てざる也

○此兩三日來炎威頗る加はり、朝日新聞に九十度を報ぜり、其れが爲めにや余の一年半は、此際大に

兆民居士は學者也

めて容易なるも、實は十數年來余が家の恐慌の度、世上の恐慌よりも更に甚しかりしが爲めに、書籍の如きは漸次賣却して米塩に代へ、今は一卷をも留むること無し、此れ余が事業に從事せし結果なり、世上智者其れ將さに如何か憫笑せんとするや

○余の事業に於けるや、贏利は則ち他人之を取り、損失は則ち余之れに任し、其末や裁判、辯護士、執達吏、公賣等續々生起し來りて後ち已む、是れ余が數年來事業に從ふて遭遇せし所の境界の順序なり、今や不治の疾に罹り百數十里外に流寓して、定て荼毘の骨を以て家に歸る事と成る可し、然ども余の本

書筐中の舊知

領は別に在る有り、他なし此一年半即ち是れ也、是れ即ち余の眞我也

○四五日前、寓の主人大上君の室に至り、唔話の末偶然君の机上の書筐を胠らき、眞山民詩鈔と唐宋八家選本とを見る、余大に喜び、恰も天涯萬里の客舍に知友に逢ひたらんが如く、直ちに主人に乞ふて借覽し、大に文思を養ふことを得たり、是より余が樂事又一箇を増し來り、先つ眞山民の詩より始めり、惟ふに余の此書を繙しは、十七八歳の時なりし歟と思ふ、其記臆に存せしは『絡緯數聲山月寒』の一什にして、餘は皆忘れて今始て讀むが如し、故に興味滋々

饒し、記性の弱なるも亦時として益ありと謂ふへし

眞山民の詩

○山民の詩聲調極めて佳にして、立意は新奇を尙びて、所謂他人の牙後に落ちざる者、是れ最も尙ぶ可し、詩にもせよ、和歌俳句にもせよ、古人の意を蹈襲して、纔に字句の表を變じたる者は、一誦人をして厭氣を發せしむ、然れども和漢滔々大率皆是れ也、

文人の苦心唯此一事

○余に常以爲らく、漢詩文は宋以後は觀るに足らず、詮ずる所古人の燒直しに過ぎず、故に余が宋以後の詩文は一讀して後復た反顧せず、夫文人の苦心は、古人の後に生れ、古人開拓の田地の外、別に播種し、別に刈穫せんと欲する所の處に存す、韓退之所謂務去陳言戞々乎其難哉とは正に此謂ひなり、若し古人の意を蹈襲して、即ち古人の田地に種穫せば是れ剽盜のみ、李白、杜甫、韓柳の徒何ぞ曾て古人を襲はん、獨り漢文學然るに非ず、英のシエクスピールや、ミルトンや、佛のパスカルや、コルテイユや、皆別に機軸を出さゞる莫し、然らずんば何の尊ふ可きことか之れ有らん

○山民立意の斬新の外、大に意を聲調に用ゐたるものゝ如し、故に其詩他の宋人に比すれば、大に唐人に肖似する所有り、後世高靑邱、蓋し山民の此等

用未だ蕃からざるが故也、是故に理學士たる者、徃々玩具商の爲めに傭はれて、意匠を玩具に用ゐて、乃ち神佛の縁日奇利を博するの用を爲して、僅に口を糊する者有りと云ふ、是れ教育家又知らざる可らざる一事なり、而して資本主と學士連中との紐結を蕃くすると、尤も肝要たり、

○化學の如きも今日に在て應用未だ蕃からす、故に學士たる者、教師と爲る外、之を事業に應用する道甚だ乏し、然ども余を以て之を思ふに、化學の如き其用極て博く、即ち醫學の如き將來大發明を爲さんと欲せは、化學に資せざる可らずして、今の六十

餘元素なる者増して七十又は八十と成るか、或は減して五十又は四十と成るも未だ知る可らす、思ふに今日化學的總合の術に由りて物質を製するもの、即ち酸水の二素を引きて水を作るが如き、僅に二三品に過きざるも、其學の更に益々進むに及びては、他の有機物を製し、竟に血を製し肉を製し、其窮極する所、腦の作用たる智、感、斷の三者の如きも、亦化學的のものも未だ知る可からす、

○科學を普通せしめ、盛に之を工業に當用し、以て精巧の物件を製すること、啻に國を富ますに於て、必要なるのみならす、亦人民の愛國心を涵養するに

上の娯樂を希望して、百方之を得んと欲す、是に於て乎、官吏に在ては苞苴賂遺以て身を肥やし、工商に在ては夤緣依附結托して奇利を覬ひ、加之維新改革の際に當り、數百年來刻急束薪の如き法度に窘められたる西國武士等、一旦朝政に參し貴官を得るに及び、驕奢淫逸に流るゝと奔矢の如く、大に都會淫靡の風を搆煽し、以て天下游冶の模範を垂れしより、縉商豪賈より、他中產以下に至る迄、相胥いて淪溺し、以て自ら夸と爲すに至る、是れ今日我日本帝國官民上下貴賤貧富一般奢侈淫逸の習を成せし所以の歷史也、敎育家、經世家、政治家、皆口を開けば、墮落腐敗を論ぜざるなし、洵に善し、然れとも一たび活眼を開て大觀すれば、一張一弛は人道の常にして、其今日の風を成せしは蓋し勢也、自然の道驛也、已むを得ざる順序也、唯た問題とする所は、能く此地獄外に一線の活路を切開き得るや否やに在り、能く大道に出でゝ長安に達するや否やに在り、而して余は前に云へり早已に好箇の兆朕を發見せりと、東天些の明光を洩らせりと

此外別に名策なし

○今日より各階級が人皆少く自ら修明して、理義の正に適合するを求むるに至る可し、且つ利益の點より考へて、爾か爲すに如かざることを省視するに